

第5回 スポーツグチ杯争奪那覇地区中学校軟式野球大会

第9回KBC学園杯争奪第22回沖縄県中学校新人軟式野球大会那覇地区予選会大会要項

1. 主 催	沖縄県野球連盟
2. 主 管	沖縄県野球連盟那覇支部
3. 協 賛	スポーツグチ
4. 後 援	那覇市教育委員会、浦添市教育委員会
5. 期日・会場	平成30年11月23日(土) 9:00(1回戦)仲西中学校(2)、浦添中学校(2)、金城中学校(2)、浦西中学校(2) 平成30年11月24日(日) 9:00(2、3回戦)仲西中学校(3)、浦添中学校(3)、金城中学校(3)、浦西中学校(3) 平成30年11月25日(月) 9:00(準決勝・決勝戦・代表決定戦)浦添中学校(2)、仲西中学校(2) 平成30年12月1 日(土) 予備日予備会場:浦添中学校、仲西中学校
6. 申込締切日	平成30年10月19日(金)の監督会・抽選会までに専門部長へ回答する。
7. 申込方法	(1)大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに 学校長の捺印を受け、原本1部、コピー4部を、 <b>監督会・抽選会</b> に地区専門部長に提出する (2)選手変更届は、那覇地区中体連野球専門部HPよりダウンロードし、校印を押印して、原本1部、コピー4部を 11月16日(金)16:45までに専門部長に提出する。 (3)ロジン1個を抽選会時に提出する。 (4)大会参加料10,000円を支払う。
8. 企画運営責任者	那覇地区中体連野球専門部 石原孝之(神森)、一安裕次郎(城北)、安里博文(安岡)、照屋茂伸(首里)、前川克志(沖尚)、仲座康一(上山) 下地雄大(鏡原)、比嘉佑(松城)、久高陵太郎(那覇)、金城達貴(寄宮)、眞崎陽介(神森)、金城哲夫(浦西) 仲村隆太(浦添)、島袋剛(首里)、仲松一星(寄宮)、根間豊(真和志)、大浜淳一(仲井真)、比嘉英(港川) 比嘉和樹(安岡)、山里毅(浦添)、座波清匡(仲西)、花城勉(金城)、仲本政毅(小禄)、米田幹(松島) 豊見山純平(石嶺)、渡嘉敷光範(仲井真)、足立忠敬(神原)、名城磨男(久米島西)
運営委員	那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
9. 参加資格	(1)那覇地区中体連加盟校に加盟している学校の生徒であること。 (2)学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。 (3)1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。 (4)選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチについては、 学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。 但し、ベンチ入りについては1名のみとする。 (5)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。 (6)参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
10. 競技規則	2018年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、特別規定を適用する。 <u>投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げきった投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。タイブレークとなった場合に投げることのできる投手は、タイブレーク方式の直前を投げきった投手か、新たな投手(その日1球も投げていない選手)に限り、1日2イニングまで投げることができる。投球イニングに端数が生じたときの取扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと数える。</u>
11. 大会規定	(1)競技方法はトーナメント方式とする。 (2)試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。また、日没・降雨の コールドゲームについては全試合5回以降成立とする。なお、決勝戦にも適用する。 日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンテッドゲーム)を適用する。 (3)7回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。10回を完了しても決着がつかないと きは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決 定するまでタイブレーク方式を続行する。 ※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
12. 試合球	全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
13. 組合せ	(1)平成30年10月19日(金)に浦添市立神森中学校(コンピューター室)での監督会の席にて行う (2)抽選は、各学校の監督が行う。
14. 表 彰	(1)優勝チームには優勝旗及び賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。 また、個人賞として、殊勲賞・敢闘賞・打撃賞を表彰する。 (2)個人賞は決勝進出校から選出する。また、打撃賞に関しては規定打席 (1試合×2打席以上:1回戦から決勝戦までとする)に達している選手で、上位3人を選出する。
15. その他	(1)チームの責任は、引率者において、一切負うものとする (2)抽選は、各学校の監督が行う。 (3)今大会の上位3チームには、第9回KBC学園杯争奪第22回沖縄県中学校新人軟式野球大会への 出場資格を与える。 (4)今大会のベスト4のチームには第62回那覇地区中体連新人軟式野球大会のシード権を与える。 また、ベスト8の4チームに関しては、久米島大会の優勝チームとあわせて5校で抽選の上 4チームをシードとする。

第5回 スポーツグチ杯争奪那覇地区中学校軟式野球大会  
第9回KBC学園杯争奪第22回沖縄県中学校新人軟式野球大会那覇地区予選会特別規定

1. 試合時間

(1) 試合は90分と計算し、その60分前までには集合する。  
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とる。
2. オーダー交換

(1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)  
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダッグアウト

(1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。  
登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。  
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。  
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック

(1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。  
(2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。  
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。  
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。  
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援

(1) 中学生としてふさわしい応援をする。(野次はつつしむ)  
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。  
(3) 会場によっては太鼓による応援を禁止する場合もある。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限

(1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。  
なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、2イニングに1度行くことができる。  
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限

(1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は 3回以内とする。 なお、延長戦(タイブレークも含む)は、2イニングに1回行くことができる。  
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具

(1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。  
(但し、マスコットバットは使用可)  
(2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。  
(3) スtockingの形をしっかりと統一する。  
(4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。  
(5) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロットガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。  
また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化

(1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所  
に移動すること。  
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。  
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。  
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。  
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他

(1) 背番号は1～20番を使用し、原則としてポジション順とする。  
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。  
コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。  
(3) Stockingの形をしっかりと統一する。  
(4) 選手交代は、監督が球審に告げること。  
(5) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。  
(6) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。  
(7) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。  
(8) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。  
(9) ランナーズコーチ及び投手が走者で塁に出た場合は、グラウンドコートを着用してもよい。  
※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。